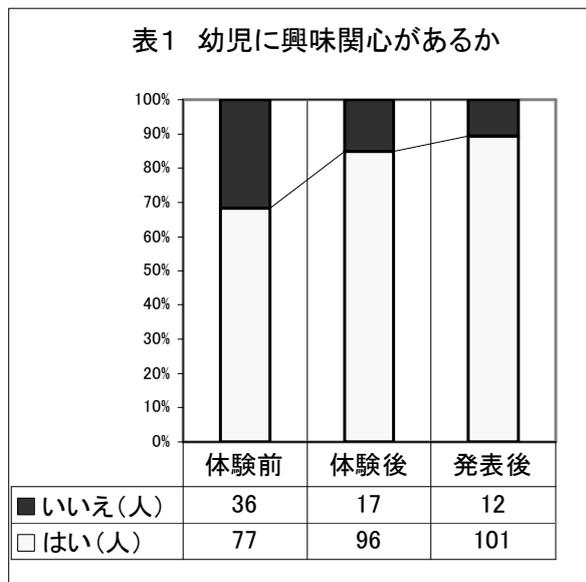


D-1 生徒の意識

(1) 幼児への興味・関心や保育体験をしたいかについて



肯定的な回答が、体験前と比較して体験後、グループ学習後と学習が進むにつれて増加した。表1に示すように、幼児に興味・関心があるかという質問について、肯定的な回答の割合が体験前は68%であったが、体験後は85%、グループ学習後は89%となった。

(2) 幼児理解について

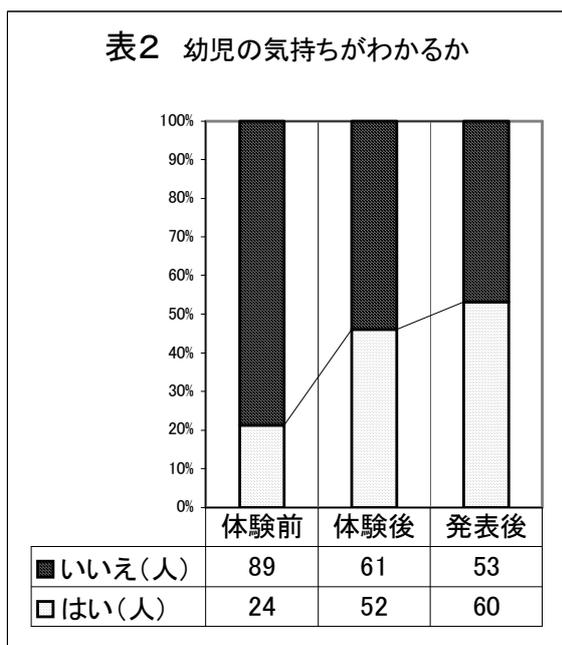
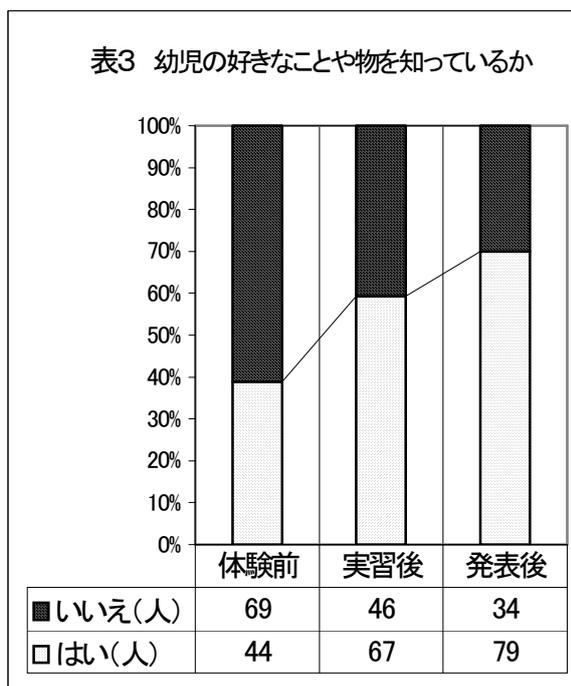


表2に示すように、幼児への興味・関心と同様、幼児の気持ちがわかるという回答が体験前の21%から、体験後は46%、グループ学習後は53%と増加している。

また、幼児の好きなことや物を知っているかについても、表3のように知っていると答えた生徒が体験前は39%であったが、体験後は59%に、グループ学習後は70%に増加している。



(3) 幼児に対するイメージ（自由記述）の変化について

女子E	幼児に対するイメージ
体験前	やんちゃ
体験後	元気がいい
グループ学習後	1歳から5歳まで成長がそれぞれ違う。大変だけど、まだまだ小さくて可愛い。

左表に示すように、体験前と比較して体験後、グループ学習後と学習が進むにつれて、幼児のイメージに具体的な記述が増加した。また、グループ学習後には幼児の年齢による違いを記述したものが見られた。

男子F	幼児に対するイメージ
体験前	わからない
体験後	自己中心的、かわいい
グループ学習後	自己中心的、かわいい、わがまま、元気、楽しい

(4) 幼児に対するマイナスイメージについて

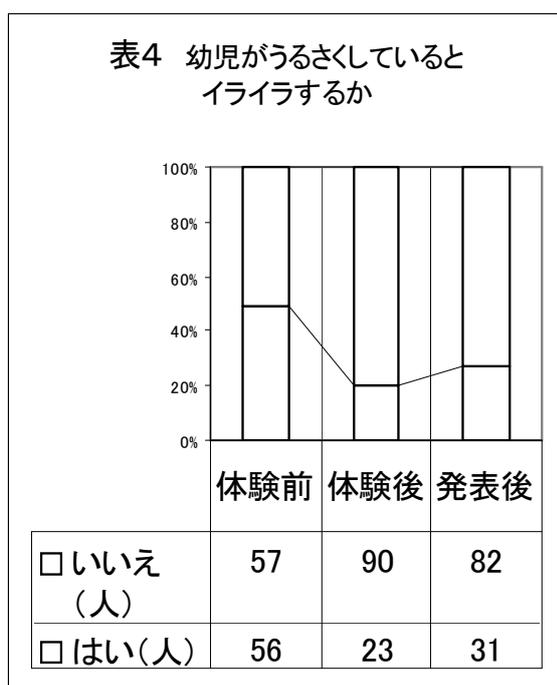


表4に示すように、幼児がうるさくするとイライラすると回答した割合が、体験前の50%から体験後は20%に減少したが、グループ学習後には27%と体験後と比較して若干であるが戻る傾向にあった。このことから、体験での思いを忘れてしまう生徒のいることがわかった。体験時の気持ちを持続させるためにはどうすればよいか、この要因を検討し、授業内容を考えていくことを今後の課題としたい。